



てんこうせい
転校生
知りがりくん

世界に広がる せともの



せともの
しじよし
せとこちゃん



せとものっていろいろあるよね。お茶碗やお皿以外にも人形だとか、タイルとか。



そうだよ、人形はノベルティって言って、アメリカやヨーロッパにたくさん輸出されたんだよ。



昔からつくっていたの？

ビスク
人形



やきもので人形をつくることは昔からやっていたけど、海外向けとしては大正時代につくられたビスク人形が最初。人形をつくるにはロクロではなく型づくりが必要となるけど、今では、**鑄込**という石膏で型をつかってそこに泥状の粘土を流し込んでつくる技術でつくっているよ。このレース人形なんかはホントにレースで編んだように見えるでしょう。



すごいね。どうしたらこんな風につくれるんだろう。

ノベルティ・子ども創造館/ノベルティミュージアムへ行って聞いてみたら。ここでは、粘土をつかっていろいろ遊ぶこともできるよ。



せとものが外国へ売られるようになったのは、ノベルティが最初なの？



せとものが海外、特にアメリカやヨーロッパで注目されたのは明治時代のことなんだ。海外で行われていた万国博覧会に出品されたものは、「染付」といって青一色で描かれた絵付のものが多かったんだけど、すごく細かく植物や動物が描かれていて、海外の人はびっくりしたんだよ。その後のヨーロッパでつくられるやきものやガラス製品にも影響を与えたんだ。



それは芸術品ってこと？

そうだね、でも陶芸家のように一人でつくるものじゃなく、デザインする人から実際につくる人まで**多くの職人が仕事をしてつくったものなんだ**。瀬戸で陶芸家が芸術品をめざしてやきものづくりをはじめたようになったのは大正時代からだよ。



そうなんだ。どんなひとたちがはじめたの。

もともとはやきもののデザインを勉強していた人や、何代もつづく窯元の若手たちが、やきものの芸術性を高めたいとはじめたんだ。さらに、瀬戸の外からも**画家や工芸家**たちがきて、**新しいものづくり**をはじめたんだよ。



そういった陶芸家の作品はどこに行ったら見ることができるの？

瀬戸市美術館や愛知県陶磁美術館で見ることができるよ。もう一つ瀬戸には「陶壁」といって、やきものでつくった壁画がいろいろところにあるよ。文化センターには加藤唐九郎や河本五郎など瀬戸の陶芸を代表する作家たちが作った陶壁があるんだ。瀬戸は、**まち全体がミュージアム**みたいな感じだよ。

